

同じ日の崩壊

明治25年(1892)7月25日、台風による暴風雨が数日間続いた後、徳島県で2つの崩壊が起きました。上那賀町(現那賀町)の高磯山の崩壊と海南町(現海陽町)の保瀬の崩壊です。

■高磯山の崩壊(徳島県那賀町)

7月25日午前11時から正午頃にかけて、大戸の高磯山(611m)の北斜面が大音響とともに崩壊しました。崩壊した土砂は那賀川を越えて対岸まであふれ、荒谷・春森の人家十数戸、60余人が埋没しました。土砂は那賀川の流れをせき止め、上流が湛水して天然ダムを形成しました。天然ダムは27日午後4時頃に決壊し、直ちに鉄砲、半鐘、太鼓などで通報されましたが、大水が下流を襲い、驚敷町などに大きな被害をもたらしました。高磯山より上流にあるつづら峠の記念碑には、那賀川がせき止められた時に、この峠を救助船が通ったことが記されています。また、春森には高磯山崩壊から100周年に当たる平成3年(1991)に慰霊之碑が建立されました。<寺戸恒夫「徳島県高磯山崩壊と貯水池防災」(地理科学第14号)1970年、上那賀町誌編纂委員会編「上那賀町誌」1982年など>



■保瀬の崩壊(徳島県海陽町)

7月25日午後2時頃、保瀬の川南の中腹が幅300m、長さ800mにわたり崩壊して、海部川北岸の山麓にいた3家族11人及び長雨を避けて投宿していた山稼人36人、馬3頭が家屋とともに生き埋めになり、田畑4町余歩も埋没しました。崩壊により海部川がせき止められて天然ダムができましたが、26日午後7時頃、弱所を破った水が海部谷を流れ下り、川沿いに人家の流出、堤防の決壊、田畑の埋没・流失などの被害をもたらしました。平井に昭和10年に建立された保瀬崩壊記念碑と平成5年に再建された保瀬大崩壊の碑が立っています。<海南町史編さん委員会編「海南町史上巻」1995年及び保瀬崩壊記念碑など>

※上記の天然ダムの決壊日時は保瀬崩壊記念碑の碑文に基づいて26日午後7時頃としましたが、「海南町史上巻」では調査の結果、27日の午後ではないかと思われると記しています。

